

グランパティオス入居開始 — ようこそ、新しい隣人たち

いよいよ3月26日から、H-1街区/S H-1街区の先陣を切って、グランパティオス公園西の街の入居が始まりました。公園西の街として予定されている1番館から5番館のうち、第1期(1番館・2番館)の129世帯の新しい隣人たちの登場です。入居された皆さん、ようこそベイタウンへ。

また、この後にも、下に示すように続々と入居が予定されています(入居時期順。店舗については詳細未定)。

●パティオス 15 番街

126世帯/平成11年7月末予定

●グランパティオス公園東の街第1期

1番館・2番館の253世帯/平成11年8月下旬予定

●セントラルパーク・ウエスト

A棟~D棟の283世帯/平成11年9月下旬予定

●グランパティオス公園西の街第2期

3番館・4番館の177世帯/平成12年3月末予定

●グランパティオス公園東の街第2期

3番館・4番館の132世帯/平成12年6月上旬予定

●グランパティオス公園西の街第3期

5番館の79世帯/入居時期未定

さらに、ベイタウン初の超高層マンション(32階)として、『セントラルパーク・ウエスト シー・タワー』も予定されています(計画戸数226戸/平成13年3月下旬入居



ミッドランドパーク予定地より公園西の街2番館(手前)・1番館(右奥)を望む

予定)。

私たちベイタウンニュースは、この春隣人となった皆さんとも、「暮張ベイタウン」というひとつのコミュニティの中で、良い関係を築けることを望んでいます。そのために、一役担えれば、と考えています。

今回、グランパティオス公園西の街の販売代理者である伊藤忠ハウジング(株)の紹介で、2番館に入居予定の新川圭二さんにインタビューすることができましたので、ご紹介します。

【板東】

以下、「編」は編集局、「新」は新川さんです。

編：まずはご自身のプロフィールをお聞かせ下さい。

新：家族は、私と妻のふたりです。自分は公務員で、今までは津田沼の公務員住宅に住んでいました。

編：どうしてベイタウンを選んだのですか？

新：自分は幕張新都心をのぞめる高層住宅に住みたかったです(今回は12階に入居予定)。また、妻の両親がパティオスに住んでおり、1ヶ月ほど実際にパティオスで暮らしたこともあり、街のきれいさなど気に入っていました。妻も両親のそばに住めるので喜んでます。

編：入居するに当たっての抱負などあれば聞かせて下さい。

新：早くこの街に慣れたいですね。それから、今までの公務員住宅と違って、いろんな職種の人たちと一緒に暮らすことになるので楽しみです。

編：私たち、既に入居して暮らしている人間に聞きたいこと・言いたいことはありませんか？

新：ベイタウン内でのサークル活動はどうなっていますか？

編：私の知っているだけでも、ベイタウンテニスクラブ、ひまわり会(55才以上の女性のサークル)、囲碁同好会、ベイタウンバレー部(ソフトバレー)、コーラスサークル、グラウンドゴルフ同好会、絵画同好会、健康ウォークの集まり、書道の会などが活動しています。また、子供ルームや移動図書館を運営している方々や、インター

ネット上のホームページBAYNET(<http://www3.makuhari.or.jp/baytown/index.html>)を運営している方々もいます。

新：そうですか、自分は囲碁をやるのでうれしいです。

編：最後に一言お願いします。

新：私は一生住むつもりでこのベイタウンを選びました。これから皆さんとは長い付き合いになると思いますので、よろしくお願いします。

ベイタウンニュース編集局からウェルカムメッセージ

ベイタウンの新しい入居者の皆さん、ご入居おめでとうございます！

本誌は現在ベイタウン内の10街区約1,200戸で構成されている幕張ベイタウン自治会連合会(愛称：ベイタウンこむこむ)が発行している月刊のコミュニティ誌です。

本誌の運営は、精神的・経済的にこむこむとは独立しており、毎号スポンサーからの広告収入だけでベイタウン内全戸に配布し、業務地域の企業などへも配られています。

編集局員は7名で全員ボランティアで活動しており、誌面の内容も「こむこむコーナー」以外は編集局の責任編集となっています。

本誌をご愛読され、街作りへのご意見をお寄せください。

こむこむ

● ミッドランドパークの建設について

ベイトウンニュース 22号で紹介したとおり、2番街の南側にミッドランドパーク（仮称）が建設されますが、建設への住民参加の一環として花壇部分を住民が計画・維持・管理する方向で計画が進められています。現在十数名で準備会が作られています。連合会としても積極的に応援していきます。（記事参照）

● 打瀬小学校通学路の改善について

小学校と7、8番街で囲まれる交差点（T字路）は従来横断歩道が設定されておりました。従って、一部の小学生は横断歩道のある交差点まで迂回を余儀なくされてきました。連合会ではこの問題を改善するために小学校の協力を得て、企業庁ならびに千葉西

警察に

働き掛け、この度横断歩道が新設されました。今後もこのような改善点を見つけて企業庁等に働

き掛けを行います。

● 幕張新都心トライアスロン大会

9月26日に開催されることになりました。昨年同様ボランティアを募り協力していきます。みなさんも積極的ご参加をお願いします。

● その他

- ・ 2月26日 資源ごみ回収に関する市民と処理業者との会合に参加しました。
- ・ 3月18日 美浜区連協の会合に参加しました。

市民花壇続報

ベイトウンニュース 22号で募集した市民花壇を作る会（仮称）が去る3/14、10番街集会所で開かれました。当日は12人の花壇愛好家が集まり、千葉市に初めてできる市民が作る花壇について夢を語り合いました。また、当日ご都合で参加できなかった方からも多数参加の申し出

をいただき、会としては順調にスタートできる見通しとなりました。今後、この会は自治会連合会の下部組織として、千葉市との連絡を取りながら活動します。第2回のミーティングは4/4（日）、10:00からパティオス8番街で開かれる予定です。

（松村）

駅前ナンパ族による傷害事件発生

ベイトウンの治安をどう守るか

去る3/11深夜、ベイトウン入口の路上でナンパ族とみられる若者に帰宅途中のサラリーマンが暴行を受けるといふ事件が発生しました。目撃者の投書を引用すると：

3月11日（木）、0:40頃電車が駅に着き、7、8人が家路を急いでいました。当然バスも最終は終わっているので、歩いて帰るのですが、例のとおり、車同士でナンパしている車が数台いました。私も早歩きで公園を横切り、ベイトウンに向かっていたのですが、私の後方でどうやらイザコザがあったようで、ベイトウンの入り口の信号のところで車が1台待ち構えていました。その車の若い男が私の後ろを歩いていたサラリーマンと口論になり、男はサラリーマンにしつこく迫っていました。私の後ろで起きていたことなので詳細はわからないのですが、サラリーマンが突然「助けて」と言ったので、振り向くと若い男が工事現場の棒（黒

と黄色の棒）でサラリーマンを殴っていました。私はびっくりして一瞬たじろいでしまいましたが、一緒に家路を急いでいた別のサラリーマンが若い男から棒を奪い、他に家路を急いでいた数人が集まってきて殴られたサラリーマンを保護しました。一人が警察に電話をし、数分後パトカーがやってきましたが、結局殴られた方は被害届けを出さなかったようです。（匿名希望）

投書からだけでは詳細が不明なので幕張西署に問い合わせてみましたが、被害届が出されていないせいか事件としては扱われていませんでした。また、実際にパトカーで出動された警察官に取材を試みましたが、投書以上の情報は得られませんでした。

ナンパ族や薬の密売人と見られる外国人が横行する深夜の海浜幕張駅周辺。新都心の治安状態は千葉県でも最悪の部類です。しかし、ビジネ

ス街はほとんどが昼間だけの活動であり、また住宅地域の住民も通勤のサラリーマン以外に駅周辺へ出る人はほとんどいないせいか、駅周辺の治安の悪さが一般住民の問題として出てくることは多くありません。その関心の低さが逆に警察及び関係機関の対策の遅れを招く最大の要因となっているようです。今後は住民やビジネス街の組織、警察や千葉県企業庁が本腰を挙げて治安対策を行うべきではないでしょうか。

かつて、ベイトウンの入居が始まる前、海浜幕張は全国有数のゼロヨン族のメッカでした。しかし、治安の悪化が幕張新都心開発の大きな障害となることを懸念した企業庁が警察および住民組織と協力して対策会議を作り、徹底した取り締まりや道路構造の変更を行ってゼロヨン族を排除したと聞きます。今後、自治会連合会でも対策が検討されると思いますが、住民の皆さんのご協力をおねがいします。

（松村）

幕張 ベイタウンが街開きをして早くも4年が経ちました。そしてこの3月、8・9月には新しい住民の皆さんが入居してきます。

現在約2,500戸、7,000人を越えようとしている状況の中で、ベイタウンにおける住民自治活動を考えてみたいと思います。

ベイタウンにおける自治活動は2年前の97年から本格化し、各街区の管理組合を土台に8つの街区で単位自治会が結成され、同年6月に幕張ベイタウン自治会連合会（こむこむ）が発刊し、本誌も同時に創刊しました。ベイタウンの住民活動では、コミュニティ・コア（公民館・図書館・郵便局などが入る複合施設）の早期建設を目指して活動しているコミュニティ・コア研究会が大きな役割を担い、そこから派生したいろいろな活動（55歳以上の女性の集まりである「ひまわり会」・「テニスクラブ」・「図書館研究会」・「子供ルーム」など）が現在も活発に行われています。

発展途上のベイタウンを良い街にしたいとの思いから住民自治活動を始めた人たちは、特定の政治・宗教・思想に組み込まない活動と義務や無理にならず楽しめる活動を目指して2年間やってきました。

連合会の創設に携わった側からの反省点としては、交通問題のように良識ある街作りを目標としている活動に対しても一部の人から、「先住民」からの圧力として受け止められていることや、旧来の自治会とは違う活動を目指している面がなかなか理解されず、後発街区の中に連合会に加入するのをためらうような状況があること、また賃貸街区の自治活動組織化に協力できなかったことなどがあげられます。

ベイタウンにおける住民自治の新しい形態

現在10の街区からの1～2名の代表者で構成されている連合会の面々は、交通委員会・防災委員会・青少年育成委員会・文化スポーツ委員会・ベイタウンニュースなどにそれぞれ所属しながら毎月2回の連合会会合をこなしているのが実情で、人手不足である事はご理解いただくとおもいます。

自治会連合会では、やりたい事、改善したい点があれば、誰かにやってもらうのではなく、そう思っている人たちが力を合わせて解決して行くやり方をしています。

従って、「連合会に言ったけど何もしてくれない、〇〇委員会もしくは新聞は何もやってくれない」という発言には違和感をおぼえます。たとえば「夏休みの公園が危ないので何とかして欲しい」との声があった時、住民有志は勿論、警察にもパトロールの強化をお願いし、住民の皆さんにも声をかけて公園の夜間パトロールを実施しましたが、肝心の発言者は現れませんでした。これでは住民活動は長続きしません。誰かにやってもらうのではなく、やりたい・やらなければいけないと感じたときに街区の単位自治会や連合会に声をかけ一緒にやらなければ解決しないのです。

連合会も2年が経ち役員の交替の時期となりました。同じ顔ぶれがずっとやるのではなく、皆が交代で経験することで新しい考えが入り、良い方向に改善されていくと思います。組織としてはまだまだ未熟でいろいろな課題を抱えていますが、ベイタウンの発展とともに住民自治活動もますます活発になって行くことを願ってやみません。

わがベイタウンニュースも住民コミュニティの一助をこれからも担って行きます。

（金）

企業庁駐車場が有料化に

車庫法違反取り締まりが本格化

来る4/16より企業庁の来訪者用駐車場が有料化され、ベイタウン在住者の車庫としての利用が制限付きながら可能となります。これまで交通委員会および西警察署では、ハイルーフ車や2台目であるという理由で居住番街の機械式車庫に駐車契約できない車に対して、車庫法違反での取り締まりには消極的でした。これは現実的に車庫に入らない車がある以上、硬直的にすべての違反車に法を適用するのは難しいのではないかと「ためらい」が取り締まる側にあったからです。そのことが多くの便乗犯を生み、結果としてベイタウンの路上駐車事情の悪化の一因と

なっていました。

今回企業庁駐車場が有料化され、500m以内に駐車できる車庫が確保できる以上、この「言いわけ」は通用なくなります。2台目であるから、ハイルーフ車であるからという理由で道路を車庫代わりに使うことはできなくなるのです。今まで、路上にハイルーフ車を止めていた方の中には、家族構成の変化等でハイルーフ車が必要となり、駐車場が確保できないのでやむなく路上駐車をしているという、本当に駐車問題で困っている方もいました。中には遠方に高い駐車場を借り、自転車で車を取りに行ったり、また、番街内に

一般の駐車場を確保し、毎月の駐車料金を払いながら企業庁の駐車場を利用している方もいらっしゃいました。こんな事情を持つ方には今回の駐車場の有料化は朗報でしょう。しかし、便乗で単に駐車料金を浮かせるために路上駐車をくり返す輩には、今回の措置は正に凶報となるでしょう。

現在、この駐車場の申し込み用紙はベイタウン内の全戸に配布済みです。該当の車両をお持ちの方は至急駐車場の契約をお願いします。公共駐車場のオープンがベイタウンの駐車問題解決のターニング・ポイントとなることを期待します。（松村）

ベイタウンニュースではニュースサポーターとしてベイタウンニュースの配布等をお手伝いいただける方を募集しています。特に新規オープンの番街とパティオス13番街

で配布をお手伝いいただける方の参加を歓迎します。配布は毎月第1土曜日、10:00からパティオス10番街集会所で集まっています。直接または松村（211-6853）まで。

小中学校の人事異動

すでに新聞でご存じの方も多いと思いますが、打瀬小学校から宍倉教頭先生、岡先生を含め5人の先生が、また打瀬中学校からは渡辺校長先生が転任されます。宍倉教頭先生、渡辺校長先生はベイタウンニュースの記事を2年間に渡って執筆いただき、大変お世話になりました。ベイタウンニュースの記事は本来学校業務とは無関係なもので、先生方には教務以外の全くのボランティアの仕事をお願いしてきました。それは学校教育は地域と不可分であるべきだというベイタウンニュース編集局一流の哲学に基づき、先生方にご協力いただいていたのですが、お二人の先生には随分ご負担をお掛けしました。紙面を借りてお礼を申し上げます。

昨年の溜先生を皮切りに小中学校では多くの移動がありました。教員の人事異動に地域が口を挟むことは勿論問題ですが、開村間もないベイタウンに独自の教育文化を植え付け、根付かせてきた先生方が去って行くことには、寂しさを感じると同時に考えさせられるものがあります。

渡辺先生、先生がいないと菜の花やひまわりはどうやって咲かせればいいのか。先生はひまわりの会をはじめベイタウンの人達に街中を花で埋めることのすばらしさを教えてくれました。また子育て中の記者としては、折りにふれて伺う先生の教育観からは随分多くのことを学びました。

宍倉先生、岡先生、そして転任される先生方。うたせ学習、特別クラブそれにフレンド活動という独自の教育を根付かせ、打瀬小学校に日本一の小学校という評価を先生方は定着させてくれました。他の学校に行かれても、打瀬の街で実践されたことを発展させて、より素晴らしい学校を創ってください。後に残る私達も小中学校の先生方と、今よりも素晴らしい打瀬小学校、打瀬中学校を創ります。(松村)

「もちつき大会-ほくたちも、お餅ついたよ!!」

3/14(日)、当日は天気もよく、たくさんの家族連れの方々がいらっしやり、会場は磯辺焼きののりや醤油のにおい、大根おろしのいいにおいでいっぱいでした。

座ればすぐに食べ物が食べられる…そんな環境に慣れている子供たちは、昔ながらの薪でもち米を蒸し、掛け声も力強く、臼と杵でつき上げる「もちつき」の様子に、興味津々・・・中には、子供用の小さ目の杵で何回かつかせてもらった「自分で、ついた餅」を食べた子もいて、とても楽しそうでした。

また、大根おろしに使われた大根は「打瀬中学校の農園」で、芋掘りの後に蒔かれたものでした。みなさん、お気づきでしたでしょうか??

大根まで街の人たちの手作りで…青少年育成委員会の役員さん、自治会のみなさん、次の日の筋肉痛覚悟の飛び入り「つき手」のお父さん、手がお餅だらけでパリパリになっちゃった役員のお母さんたち…地域のみなさんの共同作業で、大盛況のもちつき大会でした。

以下は参加者の感想です。

- ・つきたてのおもち食べて、美味しかった。
- ・もちつき、手伝って5回ついたよ。自分でついたの食べて、嬉しかった。
- ・おなかいっぱいでも、いくらでも入る。もっと食べたいな。
- ・待ち時間が30分。もう少し、短くならないだろうか。
- ・たくさん来て下さって、街が盛り上がる活力のもとになりました。

★今度は、じゃが芋掘りが6月にあります。えう、ご期待!!

編

■あつという間に春めいて、つい先日までコートを着ていたことがうそのようです。海浜公園では、芝生広場じゅうに、みみずたちの這い出した小さな穴がありました。例年だと、セントラルパーク建設地にあった空地でヒバリがうるさいほど鳴き誇っていたのですが、今は聞くことができません。ちょっと残念ですが、その代わりに、新しい仲間たちがどんどん増えています。

編集#1-210 板東司 (T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■今年は、打瀬小／中学校の卒業式に行ってきました。新しい環境に向かって旅立つ子供たちの顔は実にすがすがしく、見ている方が気恥ずかしくなるほどの美しさがありました。ひさしぶりにいいものを見たという、重いほどの感動がありました。打瀬小学校72名、打瀬中学校55名の卒業生の皆さん。本当におめでとう、そしてありがとう。

#10-612 松村守康 (T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

■4月になると小学校に入学した日の事が鮮明に甦ります。初めて出会った日の6年生のお姉さん・お兄さん達が何と大きく大人っぽく見えていたことか！初々しいあの日の自分を思い出しながら、何事にも初心を忘れずにやり続けていくことの難しさを感じています。

企画:#3-220 金一剛 (T&F211-0388/ikkim@xa2.so-net.or.jp)

■先日盛岡に遊びに行きました。白鳥の泳ぐ北上川が流れる落ち着いた街並みを羨ましく思いつつ、ベイタウンに帰って来ましたが、ちょうど夕景に映える富士山に遭遇し、少しわが街を見直しました。しかし、今回の深夜の事件の話など耳にすると…安心して暮らせる街にした後

いいですね。
タウンスケッチ記者:#3-310 佐藤則子 (T&F211-0090)

■桜真風(さくらまじ-桜が咲く頃の、南からの暖かい風)が吹く頃・・・この街の人口が増え小学校・中学校では、ちょっとだけ緊張顔の転入生がドキドキしているかもしれません。でもこの街は、たくさんの子供たちが「転入時の気持ち」を知っているので、みんな、きっとすぐに仲良くなれることでしょう。また、一面でも紹介している「BAYNETのホームページ <http://www3.makuhari.or.jp/baytown/>」に、4月1日からバーチャル会議室が設置されます。興味のある方は、一度覗いてみてください。この様に、あちこちで「小さなつぼみ」がふくらみはじめています、どんどん開花(開化)するこの街で!!

記者:ミラリオ浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

■以前、隅田川の近くに住んでいて、毎年7月の花火大会は楽しみのひとつでした。始まる前の、ざわざわした感じがたまらなく好きです。ところで、花火大会はだいたい直前まで天気悪くて夜になると持ち直す、その繰り返しでした。「ベイタウンまつり」は運良くこれまで天候には恵まれています。今年もそうであるように。

記者:茂木俊輔 (T&F211-1066/m38032@pp.iij4u.or.jp)

「幕張ペイタウンまつり」が今年も昨年と同じように住民主催で実施することが決まりました。自治会連合会ではすでに実行委員会を組織。5月8日の開催予定日に向けて、着々と準備を進めています。

3月末時点での主な企画内容は、以下のとおりです。実行委員会でも企画内容の公表と参加の呼びかけを近く予定しているとのこと。お見逃しなく。

●**綱引き大会**：トーナメント方式の街区対抗戦。会場は11番街と13番街の間の空き地を予定。

●**バーベキュー広場**：会場はコミュニコア建設予定地。その場で食材を買って、設置済みの器材で焼いて食べる仕組み。

●**グランドゴルフセミナー**：グランドゴルフ（98年9月号参照）の講習会。会場は11番街と13番街の間の空き地を予定。

●**囲碁セミナー**：小中学生を主な対象とした、囲碁の楽しさを体験できるセミナー。会場は5番街集会室を予定。

●**絵画展示会**：絵画同好会のこれまでの活動成果を展示。会場は13番街集会室を予定。

●**ひまわり種蒔き**：昨年子供たちと収穫したひまわりの種を、今年も同じ場所で蒔く予定。すっかりペイタウン名物に。

実行委員会ではこのほか、フリーマーケットと模擬店の出店も想定。近く希望者を募る予定です。詳細は担当委員の方にお問い合わせください。フリーマーケットに関しては大久保さん（TEL299-2836）、模擬店に関しては犬井さん（TEL211-0501）とのこと。

実行委員長佐藤総一さんは「祭りを通じて住民同士のつながりを深めていくとともに、住民でもやればできるとことを示していきたいと考えています」と話しています。佐藤さんの言う祭りの意義を、より広く、厚く浸透させるためにも、できるだけ多くの人に参加してほしいものです。

●「ペイタウンまつり」のこれまで

「ペイタウンまつり」はこれまで2回、96年と98年に開かれています。97年は実施されませんでした。この1年間は住民主催の祭りに切り替わるまでの“雌伏期間”に当たると言っていでしょう。

昨年の「ペイタウンまつり」は住民主催ということもあって、さまざまなメディアで全国に報じられました。実行委員長の佐藤さんによれば、広島県内のある自治会からは問い合わせがきたと言います。

街開きからわずかの期間で祭りを住民主催で実施した例は、全国のニュータウンを見渡してもそうないのでは、と思います。そうした住民意識の高さこそ、ペイタウンのなによりの誇りではないでしょうか。

企業庁主催で始まる

1996年5月19日、県企業庁内の実行委員会主催。プロムナードでフリーマーケットやバンド演奏などを、打瀬小学校のアリーナでコンサートや街づくりシンポジウムなどを、駐車場（5番街前）でカーレンジャーショーやビンゴ大会などを実施した。天候に恵まれ、プロムナードは数多くの人で埋め尽くされた。共同溝やクリーンセンターといったペイタウンならではの施設を見学する、ユニークな企画もあった。（写真は住民に配られた祭りの案内チラシ）



幕張新都心の住宅地区



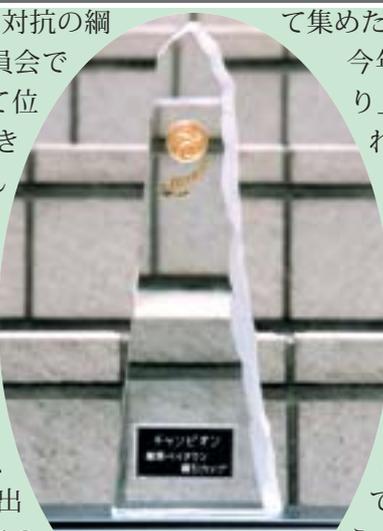
「住民主催で」が実現

街区間の交流と街区内の一体感の実現を目指して、自治会連合会内で住民主催を検討。98年5月9日、実現にこぎつける。5番街、6番街、11番街、駐車場で囲む一帯を中心に、バーベキュー広場、綱引き大会、街づくりフォーラム、フリーマーケット、模擬店、各種展示会・セミナーなど、多彩な企画を実施した。企業庁主催のときと同じく好天で、「公称1万人の人出」（実行委員長の佐藤さん）を記録した。（写真は98年5月9日付け日本経済新聞）

目玉企画は今年も綱引き大会に 2番街からは早くも「優勝宣言」

今年が目玉企画は昨年に引き続き、街区対抗の綱引き大会。「ペイタウンまつり」の実行委員会でも、各街区の親睦を深めるイベントとして位置付けていて、「力を入れて取り組んでいきたい」（実行委員長の佐藤さん）と意気込んでいます。練習に励んでもらおうと、今回は綱の貸し出しも予定しているそうです。

昨年の覇者は5番街チーム。参加14チームによるトーナメント方式の戦いに勝ち残り、最初のペイタウン杯を手に入れました。チーム結成を呼びかけた松戸礼子さんは「練習はとくにしませんでした。当日、呼吸合わせをした程度です」と言います。出場メンバーは、マンションの掲示板に募集の案内を出したほか、知り合いに直接声をかけ



優勝チームに渡されるクリスマス製?のペイタウン杯。今年のはどの街区に。

て集めたそうです。

今年はどうなるでしょうか。「ペイタウンまつり」の企画内容が3月末時点でまだ公式発表されていないこともあって、5番街ではまだ大会出場に向けたうごきは見られないようです。

そんななか意気盛んなのは、昨年は5番街チームに破れ準優勝に終わった2番街チームです。

メンバーのひとり、鎌形亨さんは「2番街には“綱引きの天才”がいるので、かれを中心に今年優勝を狙います。打倒5番街です」と、やる気十分です。「まずは人選から」と、優勝を意識したチーム作りに早くも取り組む意欲を見せています。

それぞれの思いを胸に・・・平成10年度 卒業証書授与式



【平成10年度 第四回 卒業生】

去る3月10日、打瀬中学校卒業式が行われました。前夜には「なごり雪」が舞い、まるで季節も卒業生との別れを惜んでいるかのようでした。

打瀬中学校が開校して四年目。第四回卒業生、55名。(これまでの卒業生数は、初年度8名、次年度17名、昨年度54名)打瀬中学校が創成期から形成・完成期へと移行する過程で、大きな担い手となった生徒たちです。本校の教育目標(自主・創造、信頼・敬愛、鍛錬・陶冶)の具現化に努力した生徒たちの軌跡を報告します。

【自主・創造】

自己理解、自己決定そして自己実現。主体的に実践していく態度に長けた生徒たち。

卒業生の約半数は、打瀬小学校第一回の卒業生。児童・生徒が自ら考え、選択・判断し、表現していくという、小・中共通の教育理念に基づき育てられてきた生徒たちです。日常の学習活動場面において、自己の課題を設定し、調査・追究していく課題解決型の授業が成立し成果を上げてきたことは、まさにその効用といえます。調べ学習や発表学習において意欲的で真摯な取り組みは、1・2年生の目標となっていました。そして、その姿勢は、進路選択・進路決定場面でも大いに発揮されました。自己の目標を設定し、その実現へ向け、弛まぬ努力を行っていく態度は、日常の延長線上にあるものであり、生活の中から培われたものだといえます。

【信頼・敬愛】

とかく短所は見えやすいもの、長所を見つけそれを伸ばす。それが信頼関係の前提条件であり、お互いを尊重し、認めあうことで、円滑な人間関係が生まれ、大きな精神の安定と向上を

もたらすことを示してくれた生徒たち。

とにかく仲がいい。クラスの枠、学年の枠、男女の枠が彼らには無意味なものと感じるときが多々ありました。1年生のスタート時、15人は他の小学校からの転入生。また、2年生で12人、3年生で3人。転入生からみれば、新しい環境に入る不安感は計り知れないものだと思います。しかし、間もなくうち解け、あたかも以前からいた生徒のよう…。入る側、受け入れる側に変な溝がないのです。このことは、彼らの生活の舞台であるペイタウンという地域性が生み出した大きな長所に支えられています。

【鍛錬・陶冶】

「全力投球3S(study.sports.selection.)」をモットーに日々全力で走り抜けてきた生徒たち。

現代の中学生は、やらなければいけない課題を数多く抱えています。教科の学習、各行事への取り組み、生徒会活動、部活動そして習い事。一つ越えるとまたすぐ前に次のハードル。何度も息が切れそうになったこともあったと思います。しかし、どれ一つとして疎かにすることなく、自分の持つ課題に対し、全力で取り組む姿勢を持ち続けていた生徒たちです。そしてその姿はとても輝いていました。苦勞しながらも達成したときの充足感を知っていたから頑張れたのです。今振り返れば、それら一つ一つがすばらしい思い出であり、自身の大きな糧となったことでしょう。

最後になりましたが、卒業を前に本校の在校生にあてて残したメッセージを紹介します。紙面の都合上、一部しか掲載できませんが、卒業生の思いをお届けします。

在校生へのメッセージ～卒業を迎えて～

『アリガトウ』

「後輩」という意識であり私は接しなかった。特に部活動などでの1,2年生の存在は私たちにとって欠かすことのできないものだった。

打瀬中はよく、先輩と後輩の仲がよい学校だといわれる。私もそう思う。私たちは1,2年生と卒業していった先輩たちと楽しい時を過ごし、それが自分たちにとって良いことだったと思うから、それが自然と続いていくのだろうと思う。

これについて、先輩という立場になって気づいたことがある。私は打瀬中は先輩が優しい—必ずしもそうではない気がする。先輩がちょっと腰をかかめ、後輩がちょっと背伸びをして、同じ視線で同じ時を過ごす。これは、先輩が優しいだけではだめなんだと思った。1,2年生のみんながそれだけしっかりしていた。心の余裕とか精神とか本当にいろいろと。

文化祭も終わり、私たちは受験勉強で、1,2年生のみんなと接する機会が減ってきて、そしてついに先日の「3年生を送る会」。言葉では言えないほど、なんだかうれしかった。その一瞬、一瞬、みんなの出し物の迫力に驚き、なんと手の込んだ出し物だろうと感激し、そしてそんなことすら考えられなくなるほどまた出し物のめり込んでいった。

元気のいい2年生、ちょっとおとなし目の1年生。もっとも一人一人と接したかった。「3送会」で「あの子はこういうふうに分うんだ」とか「なんておもしろい人なんだろう」とかもうたくさんの時を過ごしてきたはずなのに、結局みんなのほんの一部しかみれなかったけど、安心感を持ってこの学校を去れる。どうか今私の感じる安心感を、次の卒業生、その次の卒業生にも与えてもらいたい。

1,2年生の協力なしではこの学校づくりはできなかった。私自身もとてもお世話になったし、一緒にいてとても楽しい時を与えてもらった。みんなみんなどうもアリガトウ。

『校歌』

この学校のいいところは、歌が歌えることだと思います。私は中学2年生になる春に引越してきましたが、前の学校では授業中はもちろん、校歌すらほとんどの人が歌っていませんでした。歌が好きで私にとってそれは悲しいことでした。小学校高学年の頃から真剣に歌う人は少なくなってきたので、それが当たり前のようになっていました。けれどこの学校では、たくさん生徒が歌を何の抵抗もなく歌っていることに驚きました。初めて校歌を聞いたとき、少人数なのに大きな声で歌っていました。それだけで打瀬中学校の生徒がどんな人たちなのかかわかった気がします。

授業中でも、歌を歌うことが恥ずかしいと感じる人がほとんどなくて、みんなが楽しく歌っていました。前はピアノがただ流れるだけのつまらなかった音楽の授業も楽しくなりました。このことはとてもいいことだと思うので、これからも続けていってほしいと思います。

『中学校の友達』

僕がこの打瀬中学校にきたのはちょうど2年生のなったときでした。始めてきたとき、正直言ってなじめるかどうか心配でした。まあさすがに中学2年生になってからの転校はなかなかつらいものがあります。結果、なじむのに一ヶ月ぐらいかかってしまいました。実にその一ヶ月間は辛かったです。学校に行くのがいやになるほどでした。でもなじんでからは学校で友達と遊んでいるのが楽しくなって学校そのものが楽しくなりました。要は学校生活を楽しく過ごすためには友達がいるってことが一番大切です。友達になって相手の内面がわかったときに気にくわないところが多々あったりすると、直してくれよ、というようなことはあまりしないようにして相

手のいいところをもっと見つけるようにした方がいいです。相手だっけ自分のことを気に入ってくれていないかもしてないから、人にわかってもらいたいのだったら、自分も相手のことわかってやらなくてはいけない、そんな感じです。

自然教室や修学旅行に行く前にみんなで計画を立てるときも楽しかったし、行った先で夜中に大騒ぎしたり、自分たちの部屋で好き勝手にやったりスゴイ楽しかったです。僕の中学校生活は友達あってのものでした。受験もかなり苦しかったけど、みんながやっていて「まあ、がんばろうや」。そんなノリでやっていました。みんな一緒だと気が楽になって助かった。やっぱ友達っていうのは宝になるから大切にしなければいけないですね。

中学校で過ごした3年間は友達に助けられたり、助けたりで連続でできあがってきました。友達なんて自然にできるものだから、あまり大切ではないなんていう人もいるかもしれないけれど、自然にできて身近にあるものだからこそ、自分も腹を割ってつきあった方がいいと思います。

『在校生のみなさん』

僕の経験からいろいろと言おうと思う。まず部活動、1年生の時の部活は先輩方の助けを借りて新人戦や夏の大会に向けてがんばった。2年生の時は総体に向けてがんばりました。3年生では最後まで悔いのないように部活をやり抜くこと！以上。

学校生活では、授業の時間は常にまじめで、寝てはいけない。廊下は走らない。先生に対してはちゃんと敬語を使うこと、明るくユーモアのある人間になること。これらのことをすべてやり通した人間は中学校生活、楽しくて楽しくて学校に行くのが病みつきになりますよ。

学校のイベント。イベントは常に楽しくしようと努力することが大切だ。これを忘れたらあなた、せつかくの思い出づくりが台無しだ。体育祭の時は実におもしろかったねー、僕も体育祭をおもしろくしようと努力したから。本番の時は絶対勝つ!!俺は絶対勝つよ!!という気持ちで体育祭に臨んだね。たとえ負けても誇らしげに胸を張って次の体育祭の時は勝てるようにがんばろう、と努力することが大事だよ。

次に修学旅行は自立するチャンスなのでがんばって自立しよう!?僕はこの中学校生活は自分にとってとてもいいものになったと思う。いろんな思い出もつくられたし、この学校はいろんな面で僕を成長させたかもしれない。1,2年生、この学校生活いろいろ大変なことがあると思うが、がんばって学校生活を楽しくしてください。

『受験を通して』

私はこの一年で大切なことをたくさん学びました。まず勉強というものがこれからとても重要だということ。私はとにかく勉強が大嫌いだ。みんなが頑張っているのに「別にいいや」と思ってやらなかった。そうしたらいつの間にか自分一人だけいろいろなことがわからなくなっていた。そのときは本当に悔しくて情けなかった。それでも勉強というものに取り組むことはしなかった。もうみんなに追いつけない。特に私の周りには頭のいい人がたくさんいたのでよけいにプレッシャーがかかっていた。勉強は絶対にやればやるだけ伸びるということにまだ気づけなかった。そんな気持ちで迎えた一つ目の受験、面接だけだったのでまだ私は余裕だった。ここまで余裕でいた自分が本当に嫌だった。でも第一志望までの一ヶ月間、死にものぐるいで頑張った。もっとやっておけばって本当に思った。みんなは自分のやるべきところがわかっていたけど、私のやる量はみんなの倍以上あった。でも友達がいないかったら、悔しいとかそういう気持ちになれなかったと思う。友達がよい刺激になった。だから友達や先生を大切にしていってほしい。みんな頑張ってください。